2025 年度　自己点検・自己評価及び学校関係者評価の結果について

本校では、教育水準の向上と適正な学校運営に取り組んでおりますが、本年度においても、良質な看護教育の更なる展開を図ることを目的として、自己点検・自己評価を行い、その評価結果について取りまとめました。

併せて、さらに質の高い看護教育を実施することにより、幅広い知識と確かな技術を習得できる学校となることを目指し、自己点検・自己評価に加え、学校関係者評価委員会による評価を実施しました。

自己点検・自己評価及び学校関係者評価委員会の評価結果については、見直しや改善等に努めるなど、適正で良好な学校運営を推進できるよう十分に活用してまいります。

評価結果につきまして、次のとおり報告致します。

2026 年 10 月　　日

おだわら看護専門学校

１．自己点検・自己評価

（１）評価方法等

2025 年度（2025 年 4 月～2026 年 3 月）の教育活動について、本校教職員で構成する自己点検・自己評価委員会及び全教職員により評価を行った。

（２）自己点検・自己評価委員会による評価

○2026 年 5 月～6 月に実施

○自己点検・自己評価委員会委員による評価をもとに、全教職員が評価実施

○評価項目

厚生労働省が設置した「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」の結果を元に、公表されたカテゴリ―を大項目 7，中項目 18、評価項目 81 項目に設定

○評価基準

評価項目 81 項目について、下記の 4 基準点により評価

適切⇒ 4　　ほぼ適切⇒ 3　　やや不適切⇒ 2　　不適切⇒ 1

（３）自己点検・自己評価委員会による評価結果のまとめ

○開催日等　2026 年 6 月 30 日

（於：おだわら看護専門学校）

○出席者　副校長・教務主任・専任教員・事務長・事務係長

２．学校関係者評価委員会

（１）評価方法等

学校関係者評価委員会を開催し、自己点検・自己評価結果に基づいて評価を行った。

（２）学校関係者評価委員会

〇開催日時・場所

2026 年 8 月 26 日 18 時 00 分～19 時 00 分

（於：おだわら看護専門学校）

〇出席者

委　員（４名）

区　　分	所　　属	備　　考
委 員 長	クリニック院長	その他学校長が必要と認める者
委　　員	病院看護部長	養成所教育に関わる臨地実習施設関係者
委　　員	クリニック看護師	本校卒業生・保護者
委　　員	元小学校校長	教育に関し知見を有する者

事務局（学校教職員 5 名）

（副校長・教務主任・専任教員・事務長・事務係長）

３．評価結果

今年度の自己点検自己評価の結果より以下の課題と改善等が明らかになった。

Ⅱ-４　財政基盤

定員充足率は 78.8%であり、神奈川県内の看護学校の充足率 73.2%を上回っている。入学選抜方式を拡充したり努力はしているが、年々受験者数及び入学者数は減少の一途を辿っている。それに伴い、財政基盤も厳しいものとなっている。令和９年度の募集より定員を 80 名から 40 名に変更し、改善を図る予定である。校舎の大規模修繕費用捻出の課題もあるが、デジタル化等の推進により更なる経費削減を進め、財政基盤の安定を図っていく。

Ⅲ-８　カリキュラム・授業方法

授業評価について、QR コードを用いて実施したが、学生の協力が得られず、授業評価の回収率が 30%程度であった。今年度はその反省を踏まえ、実施方法を変更した結果、80～90%の回収率へ改善している。また、外部講師への評価も併せて行うことにより講義内容に関する要望を伝えやすくなるなど、教育の質の改善にもつながっていると思われる。

Ⅲ-10　卒業生支援

ここ数年、同窓会の活動が活発ではない。本校の卒業生である学校評価委員から、「集まる機会は皆、楽しみにしている」とのご意見があり、定期的にホームカミングデイや講演会を卒業生対象に開催し、卒業生が本校に戻って来れるような仕組みづくりを検討していく。

現在、教員になったり、認定看護師を取得したり、訪問看護を立ち上げ管理者をしているなど地域で活躍している卒業生に講義をしてもらい、病院に勤務後の自分を描けるような取り組みをしている。

ホームページにも卒業生の活躍を紹介するコーナーを設け、卒業生への情報伝達手段としている。

Ⅲ-11　臨地実習

SNS に関連して、数時間で消えてしまうサイトであったが、投稿をしたケースがあった。他学生から報告があり発覚。患者など個人情報はアップされていなかったが、投稿をした学生に対し、個人情報保護に関する指導実施をした。一方で、そうした投稿に対する学生自体の倫理的な考え方が育ってきていることも感じることができた。良い教訓として今後、取り組んでいく。

Ⅵ-16　国際交流

国際交流について、2024 年度より改善しているものの、当校で一番低い評価点となっている。2025 年度は、市内の日本語学校で学ぶ外国籍の学生との交流会をすることができ、お互い良い刺激を受けることができたと感じている。

委員からは、外国籍の看護補助者が多くなってきているので、就職と同時にスタッフとして一緒に働く可能性が高いので、円滑にコミュニケーションが取れるようにしておく必要ながるのではないかとの意見があった。

学生が就職後、臆せず外国籍の同僚とコミュニケーションが取れるよう、国際交流の機会を確保するべく、今後、インドネシアの学生との交換留学生制度導入の提案が来ているので、実現できるように努めたい。

Ⅶ-18　研究・活動

研究・研修について、自ら学ぶという姿勢が低いように感じている。授業参観を実施し、授業の質を向上させる取り組みをしているが、まだ一部の教員のみ実施しているため、今後は全教員の実施を検討している。教員自ら「研究は大事」という視点を持って、これからも教育の質の向上に努めていきたい。

以上